

心のたすきさを今につなぐ 親切運動は我が校の誇り

来年度で、「小さな親切」運動に加入して、ちょうど50年になります。新潟県で唯一加入している小学校と聞いております。

児童はみな素直で仲が良く、上学年が下学年の面倒をよくみます。地域、保護者の方々も温かく、学校にとっても協力的です。こうした風土の背景に、49年にわたって取り組んできた「小さな親切」運動が脈々と息づいていることを感じております。

児童と学校教員、保護者、地域の人が原稿を寄せる「小さな親切」文集『ひしの実』を毎年発行しております。そして、特別な取り組みをしているわけはありません。校内と家庭がメインです。でも、子どもたちや職員は、運動を続けてきていることをとても誇らしく思っています。

平成30年度に加入50周年を迎える当校の子どもたちに、更なる意欲づけを願っております。

励ましのメッセージを頂戴できましたら幸いです。

(校長 加勢律子)

新潟県・長岡市立 深沢小学校

くしくもこの夏、永い会員校である

長岡市立深沢小学校(新潟県)と

富土市立須津中学校(静岡県)から、

事務局にご連絡をいただきました。

両校とも熱心に運動をすすめられ、

パンフレットにモデル校として紹介されてきた学校です。

現在の活動などをお聞きするうちに、

「久しぶりにお尋ねし、児童、生徒さんたちの

お話を聞きたい」との気持ちが高まり、

わくわくしながら取材に伺いました。

深沢小学校に伺ったのは、

今から24年前。親と子と

地域を結ぶ小さな親切作文

集「ひしの実」の発行30号

を記念して、和田照子専務

理事(当時)を講師に招き

記念講演会が開催されたときでした。

校内には、親子クリーン作戦や老人

ホーム慰問などの活動報告が写真入

りで、そして児童たちの親切の実が

たわわについた「親切の木」が掲示

され、「さすが深沢小」と感動したこ

とを覚えています。

◎

9月12日(火)、上越新幹線長岡

駅には加勢校長先生が迎えてくだ

さり、自家用車で一路学校へ。車窓

には、広大で緑豊かな田園が広が

ります。以前は100名ほどの児童が

いた同校ですが、「全校生は43名で、

複式学級で勉強していること」「人数

が減り活動の制約があるが、子ども

たちは一生懸命に取り組んでいるこ

と」などを伺いました。

本日のスケジュールは、まずは給食。

昼の校内放送を聞いてから、毎週火

曜日の昼休みに取り組んでいる「し

んせつタイム」を取材。その後体育

館で、「小さな親切」運動本部からの

お話と質疑応答です。

給食と校内放送

いただいた給食は、わかめごはん、



おいしくて大満足



背伸びして蜘蛛の巣をとっています

クリームシチュー、から揚げと出来立てほかほかです。加えて、果汁100%のオレンジジュース。脱脂粉乳というとつもなくまずい飲み物で育った私には、ジュースはなんともはや感激の一言につきまます。

近頃、中学校で学校給食の遺物混入や、まずさが問題になっていきますが、校内で作られたあたたかい給食は最高のおいしさ。食器を下げに来た子どもたちの「ごちそうさまでした。おいしかったー」の声が、廊下から響いてきます。

お昼の校内放送が流れてきました。急いで放送室へ行くと、親切委員会の6年生二人が、「ひしの実」を朗読していました。同校の歴史をつむぐ作文集には、小さな親切の思い出の数々がちりばめられています。

しんせつタイム

給食のあとは、15分間の「しんせつタイム」(清掃時間)。毎週火曜日の昼休みに取り組んでいます。

今回は、親切委員会の田口智子先生がちよっとヒントをだしたそうで、普段は気づきにくい体育館ドアの蜘蛛の巣清掃に、雨の中、一生懸命に取り組む姿がありました。体育館のドアの溝をレールにそって掃除していた男の子は、家で風呂掃除をお手伝いしているそうで、小さな溝を丁寧に拭きました。その他にも、玄関や廊下、階段など校内各所で掃除をする子どもたちの姿が見られました。

田口先生は、「子どもたちは先輩の動きを見ているので、掃除の仕方が上手ですし、気もまわります。また、掃除を終えた子どもたちが、体育館に集まってくれました。みんなに伝えなかったのは、「深沢小学校は親切運動の伝統校として、東京の中央本部職員はみんな知っています。運動をやめることは簡単ですが、伝統として続けることは大変。それを先輩から後輩へと今につないできた皆さんの努力に感謝すると共に、これからも引き継いでいただきたい。日々親切に触れることで自分の心が豊かになる」ということです。

子どもたちからは、「子どもの会員はたくさんいますか」「事務局

親切運動のお話と 質疑応答

コミュニケーションに言葉は大切ですが、子どもたちの思いやりのある言い方は素晴らしいですよ」と話してくださいました。

では何をしているのですか」「他にも学校に行きましたか」「運動にはいつたきっかけは」と、積極的に質問をしてくれました。こんなに質問ができたのは初めての経験でした。

◎ 地方をお尋ねする度に思うのは、



子どもたちがたくさん質問してくれました

心のたすきを今につなぐ 親切運動は我が校の誇り

地域が大切にしている伝統、精神があるところほど、「小さな親切」運動に熱心に取り組んでくださっていることです。長岡市も「米百俵」の精神が今も息づいています。

児童のみなさん、保護者、教員、地域の皆様、これからも伝統ある深沢小学校の親切運動を、作文集「ひしの実」とともに続けてください。

(事務局長 山橋由貴子)

静岡県・富士市立 須津中学校

須津中学校は昭和44年、生徒たちが話し合い、全クラスの賛同を得て運動の会員となりました。以来50年近く、生徒会や各クラスから2名ずつ選ばれる「小さな親切」委員会が中心となり、活動を続けています。

同校の牧田一樹先生が、「我が校の生徒たちも、あいさつ運動をとてがんばっています。『小さな親切』誌

深沢小学校の 「小さな親切」4か条

1. あいさつをかならずしましょう。
2. はっきりした声で返事をしましょう。
3. 親切をしてもらったら、「ありがとう」と言しましょう。
4. 人が困っているのを見たら手伝ってあげましょう。

※深沢小学校では、小学生に身近な親切を4か条として実践しています。

「米百俵の精神」

1868年、戊辰戦争で新政府軍と戦った長岡藩は敗北。まちは焦土と化し、禄高は三分の一の2万4千石に減らされ、人々は極貧生活を強いられていた。

そこに、支藩の三根山藩から米百俵が贈られた。藩の大参事小林虎三郎は「米を食いつぶして何が残る。国が興るのも、まちが栄えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ、学校を建て人材を養成するのだ」との信念を貫き、皆の反対を押し切り国漢学校を建設。藩士の子弟のみならず町民や農民の子どもも入学が許された。ここに、長岡の近代教育の基礎が築かれ、新生日本を背負う多くの人材が輩出された。

米百俵は、2002年の小泉首相(当時)の所信表明演説で取り上げられ、全国的に有名になった。

で紹介いただければ、生徒の励みになると思います」と、お電話をください。さっそく取材に伺いました。

大人気！ゆるキャラ 「貢犬くん」

朝7時過ぎ、生徒会メンバーは、あいさつボランティアの生徒24名と共に、すぐ近くの須津小学校前の交差点で、元気にあいさつ運動を始めました。須津中のゆるキャラ、「貢犬くん」は大人気！登校する小学生たちと、ハイタッチをしてあいさつ運動を盛り上げます。

その後、「貢犬くん」と生徒会メンバーは、小学校の校庭へ。登校のピークが過ぎると、10人にあいさつする

ことを目標に、持久走の練習をする小学生と一緒に、走りながら声を掛けます。何とも活動的なあいさつ運動です。

小学生に感想をきくと、「貢犬くんがかわいい」「中学生になったら(あいさつ運動を)やってみたい」と口々に答えてくれました。子どもたちにとって、頼もしい先輩たちです。「貢犬くん」は昨年、生徒の公募により誕生。生徒会のスローガン「貢犬」にちなんで名づけられました。

当時の生徒会長の岩田理央くんによると、当初は着ぐるみを作る予定はなかったのですが、卒業する三年生を驚かせるため、こっそり制作をすすめ、「三年生に贈る会」で晴れてお披露目。このエピソードからも、



小学生に囲まれる貢犬くん

学年を超えた生徒たちの仲の良さがうかがえます。

同校のあいさつ運動は、ありがとう・さようなら・がんばろう・おはようの頭文字をとって、「アサガオ活動」と呼ばれ、校内で行う週と、取材日のように校外で行う週と二本立てとなっています。校内で行う日は、登校しながらごみを拾うなど、地域の環境美化にも貢献しています。

須津中版

「小さな親切」八か条

同校の活動のもう一つの大きな特長は、入会当初から「小さな親切」八か条を活動の基本としてきたことです。昇降口の前には、昭和56年に建てられた「小さな親切」八か条の石碑があり、現在も毎朝クラスごとに唱和しています。



右側通行を促進する折鶴

しかもこの八か条は、須津中学校の生徒の環境に合わせアレンジされた、オリジナルバージョンです。

◎

生徒会担当の青山^{のぶまさ}宜正先生は、「私が赴任した5年前、正直に言う活動は停滞気味でした。そこで、『小さな親切』八か条に立ち返り、改めて『小さな親切』運動とは何か、というところから考えたのです」と話してくださいました。

八か条を改めて見直すと、中学生の生活環境にはなじまない項目がありました。例えば、第六条はもともと「電車やバスの中で、お年寄りや赤ちゃんをだいたおかささんには席をゆずりましょう」ですが、生徒たちはあまり電車やバスを使わないので、「困っている人を見たら、力を貸してあげましょう」に修正。自分たちがより、実践しやすい「須津中版『小さな親切』八か条」を作りあげました。

この八か条ができてからは、生徒会の重点活動もこの項目から選び、活動がしやすくなりました。色々な

取り組みをするのではなく、一つの活動に注力することにより、結果的に運動の継続につながっているのではと、先生方はおっしゃっていました。

第一条の「あいさつ」に重点をおく今年は、前述のあいさつ運動を始め、次のような取り組みもしています。

須津中版「小さな親切」8か条

1. すれ違った人には、さわやかなあいさつを必ずしましょう。
2. はっきりした声で返事をしましょう。
3. 他人からの親切を心から受け入れ、「ありがとう」と言きましょう。
4. 人から「ありがとう」と言われたら「どういたしまして」と言きましょう。
5. ごみを見つけたら進んで拾い、自分の使う場所をきれいにしましょう。
6. 困っている人を見たら、力を貸してあげましょう。
7. 他人の迷惑になることはやめましょう。
8. 人のためになる活動を積極的にい行いましょう。

※太文字はオリジナルを修正した項目

廊下にならぶ折鶴。いったい何だとおもいますか？

折鶴には一つひとつ、「静かに歩きましょう」「さわやかなあいさつで学校を明るく」といったメッセージが書かれています。右側通行を促進し、それを徹底できれば、生徒間のあいさつもしやすくなるのでは、と考えた今年の生徒会のアイデアです。

生徒会長の秋山万実さんに今年の抱負を聞くと、「昨年の活動スローガン『貢献』の気持ちがい育つように、活動を進めています」とさわや

かな笑顔で答えてくれました。折鶴は生徒全員で折ったので、きつと一人ひとりに自然と自覚が生まれることでしょう。

また、毎年「小さな親切」入会式を行い、新入生に贈られる運動の会員バッジ。このバッジを身につけることで自然と、活動に対する誇りが芽生えていると先生方はおっしゃいます。

高校受験の面接では、この会員バッジを胸に、須津中学校の特長として「小さな親切」運動について話す生徒が大半なのだそう。中には、失くしてしまつて大慌てする三年生もいるそうですが……。そこまで会員バッジを大切に思つてくれているのは嬉しい限りです。

(今野那緒子)